

令和元年度 第1回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】 令和元年7月12日（金）

午後1時30分～3時30分

【会場】 静岡県医療健康産業研究開発センター

（ファルマバレーセンター）

3階交流ホール

1 出席者

- ・ 発言者 裾野市、清水町及び長泉町において様々な分野で活躍中の方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 130人

2 発言意見

番号	分野・所属	項目	頁
発言者1	製造業	食品及び日用品雑貨の企画開発・販売による静岡茶の普及	3
2	子育て支援	子育て支援サークルの運営	4
3	農業	いちごの生産・販売	8
4	製造業・地域振興	家具の製造・販売及び地域振興法人の運営	10
5	農業	味噌作り指導及び露地野菜等の生産	15
6	女性起業家支援	企業の広報戦略支援等及び女性起業家支援	17
傍聴者1	—	子育て支援活動への助成	25
2	—	起業家支援活動への助成及び富士山の眺望保全	26

【川勝知事】 皆様こんにちは。今日は梅雨空の中でございますけれども、大勢の方にお越しいただきまして誠にありがとうございます。

知事広聴というのはですね、県が何やってるかということと言う機会ではありませんで、今回はこの長泉町それから清水町、裾野市の代表の方々のお話をしっかり承り、それを県政に活かしていくというそういう目的で開催しているもので、これまで60以上の会場で開いております。

この場でお答えできることはお答えいたしますが、お答えできないものがありましたらば持ち帰りまして、そのあと必ず担当部局が対応し、政策に反映するようにしていると、こういうふうにして、60数回やって参りました。

今回はですね、昨日からこちらの方に寝泊まりをしておりますして、東部地域局長室が今の私の知事室になってるところでございます。

昨日はまず長泉に入りまして、パルながいずみ、皆さんご存知でしょう。たくさんのお母さんがお子様を遊ばせながらですね、交流されてるのを見せていただきまして、大変勉強になりました。長泉は本当に子育てしやすいところだなということ、そこに行ってすぐに実感をした次第でございます。そのあとちょっと下りまして、自転車、今、一生懸命やっておりますので、伊豆の国市ですね、伊豆のへそという所があるんですけど、そこはいちごを売ったりですね、それから昔、蘭の展示をしていた所がありますけれども、そこが今、自転車の展示場になっております。そのあとあちこち行きましたけれども、お近くの三島北高校におきまして、高校生が、英語でプレゼンをするんですね。世界に出ていろいろと役に立つことをされてる。

今日は朝早くに、裾野の方にお邪魔いたしまして、何と夏いちごを今作ってらっしゃる方がいらっしゃいましたよね。いちごって冬でしょ。しかし、夏に美味しくいただける、あるいはケーキに活用できる、そうしたいちごを扱ってる所、作っておられる所ですね。御意見を聞きながら、何か我々が応援できることがないかというお話をしたり。そのあと水ヶ塚。あそこ今高地トレーニングやってるんですよ。高校、大学それから企業がですね、1500メートル近い所ですから。高地トレーニングするのに、例えば菅平まで行ってたと、長野県の奥ですね。はるかにこちらの方が近いということで、いろいろな問い合わせが引きも切らないという現場を見たりしております。

そして、この長泉で。ここはこういう会議をする場所では、本来はありません。もともと高等学校で、この長泉高等学校の跡地をどう運営したらいいかと、ここは、お隣のがん

センターと一体でいろいろな薬剤並びに医療器具を作ってるんです。その医療器具の生産額は御存知の人もいないかもしれませんが、日本一が静岡県です。4000億円とか5000億円のオーダーで作ってありまして、二位が栃木県で2000億円ぐらいですから、断トツですね。今輸入超過の医療器具の国産化の拠点になっております。それから医薬品もいろんな会社がありまして、6000億円ぐらい。それから化粧品といいますかコスメティックも、トップクラスでありまして、合わせると1兆数千億円で断トツで日本一健康と美を作っているその拠点の一つがここです。そういうことですね、高等学校の跡地が、今、日本のいわば健康づくりの最後の砦で、技術を磨いている、そういうものに生まれ変わっているということですね。とにかく、こういう場所になかなか来る機会もないかと存じますけれども、後ろの方は見にくいかもしれませんが、そういうことで御容赦願いまして、この地が実は静岡県あるいは日本にとって重要だと。山口建総長はですね、ここ全体を医療城下町にしたいというふうにおっしゃっています。健康が実感でき、本当に困ったときに、すぐにお医者さんとか買い物に行けるような医療城下町を明確に構想されながら、まちづくりにも今関心を持って、県と一緒にやったださっております。

長々と申し上げましたけれども、今日はしっかりお聞きいたしまして皆様方の市政町政に役立ちたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

【発言者1】 発言者1といたします。清水町の柿田、おいしい水の所に住んでます。

チャティーを開発したのは、2010年の1月になるんですけども、ペットボトルがかなり飲まれていて、今、世界的にはプラスチックごみが捨てられているということが話題になってるんですけども。

自分たちが開発したのはペットボトルが茶こし器になるものです。ペットボトルに茶葉を入れていただいて、茶こし器を挿入していただき、キャップをして10回ぐらい振ってキャップを取って、飲むと、茶こし器になるものですから、茶葉はこっちに出てこない。で、気軽にお茶が飲めます。

静岡県は、お茶の生産地がものすごく多いんですけども、僕らよりも年代の高い方は急須で飲む方が圧倒的に多いと言われてるんですけども、急須なしでもかなり美味しく、お茶が気軽に飲め、かの3.11の災害時にもかなり活躍して、やっぱり困ったときには日本人っていうのはお茶を飲みたいということで、去年、一昨年ぐらいから、海外の方からの問い合わせもすごく多くなっています。

中国とかアジアとかですね、あとロシア、アメリカ、フランス。日本の国内のお茶屋さんか海外へ持って行って、向こうで非常に売っていただいている。ペットボトルの口径は韓国だけはちょっと口径が大きいもんですから、100%合わないんですけど、ほとんど世界各国、95%以上が口径がぴったり合います。どんなペットボトルも再利用可能ですから、これを使ってどんどん静岡県のお茶を普及させていただきたいと思っています。

あともう一つはですね、静岡県の緑茶、静岡県川根産のお茶を加工して塩と合流させてシオティーというものを作りました。県内で知ってる方が少ないもんですから、もっともっと静岡県を通して世界に広げていきたいなっていうふうな考えで今もやっています。

【発言者2】 いちごの発言者2です。いちごの名前の由来は一期一会のいちごです。

人と人との出会いを大切に、「あったらいいな」を形にする団体として12年前から活動を継続させています。会員数は200世帯を超える団体です。発足のきっかけは私自身が産後うつのような状態になってしまったことから、自分にとって必要な場所として立ち上げました。

活動を継続していく中でたくさんの人に出会います。町や商店街、企業さんや地域で活躍するたくさんの方のすてきな人達、そこにはたくさんの思いが溢れていて、それぞれの枠を超えて一緒に手を組むことで広がる可能性と深まる絆が今のいちごの財産になっています。そんな人たちとの繋がりを得て公益的な事業に広がりを見せたことから、活動10周年を機に非営利型の一般社団法人を立ち上げました。

併せて、10周年のお祝いのように、県知事褒章もいただくことができ、運営の継続が難しいと言われている子育て団体を続けてきたことの御褒美をいただけたような気持ちで本当にうれしかったです。ありがとうございました。

何でも10年続けることだと聞きます。活動10年経ったあたりから、民間の力としてお仕事の依頼を受けることが増えてきました。昨年度は、信頼ある団体しか受けることのできない国庫の補助金をいただき、清水町福祉センターで毎週水曜日に「ママと子どもたちのおひさまのへや」を開催し、毎回40人を超える親子が遊びに来てくれる居場所となり、丁寧に親子のニーズに応えることの結果を大きな実績として残すことができました。

残念ながら、補助金事業の継続は課題でもあります。1年かけて定着させてきた事業で、ファンがすごくついてくださったんですけども、補助金がない状態になってしまっていますので、現在は、補助金がない中で、スタッフが疲弊しない範囲内で縮小開催して続け

ています。

また、12年前に自分にとって必要だった居場所づくりを、清水町の保健センターさんからの委託をいただき、同じ地域に住む親子が産後から小学校に入ってもつながれるようなつながりづくりをお手伝いをする企画を行っています。ずっと必要だと思っていた場所を町と一緒に作ることができていることを本当に幸せに思っております。

民間ならではの企画力とネットワークが評価され、現在では、子育て支援の枠を超えて地域で活躍する人と人をつなぐネットワーク構築事業や、チャレンジする場所を求めるママたちに向けた居場所の提供などの女性活躍推進事業、また、地域活性化事業として、主に商店街活性化事業などを行っています。

代表的なものとして、活動は沼津になりますが、Proud NUMAZU Kosodateといった行政と沼津に存在するいくつかの民間団体がタッグを組み、行政と同じ立場で議論し合う団体を立ち上げ、その団体の代表も務めさせていただいています。清水町民ですが、育った町が沼津でもあり、清水町も沼津も大好きです。沼津に住む親子達が沼津で子育てができて良かったと誇りを持ってもらえるような市に、そんな思いからネーミングはProud NUMAZU Kosodateになっています。沼津で活躍する子育てサークルと行政の横のつながりを作り、輪になって、一つの事に向かう、そんな活動しています。

また、いちごの活動をたくさんの人に知ってもらうきっかけとなった「ぬまづパンまるしえ」は商店街活性化を目的に、民間主催のイベントにもかかわらず、1万人を超えるお客様に御来場いただけるイベントとなり、今年は第6回目を迎え沼津10大イベントとしても取り上げていただけました。このイベントのコンセプトは、たくさんパン屋さんを呼ぶことが目的ではなく、「パンでつながる笑顔の輪」としており、個々で活動していた複数の商店街を繋げ、行政、企業、民間と連携して、一つの方向に向かって繋がりを作り上げています。関わることで、商店街やそこに住む人たちのことが好きになっていく。そんな現象がいろんな所で起きていくことで、自分が当事者として楽しみながら町に関わることができ、みんなが幸せになれると思っています。私自身、言い方が悪いのですが、商店街活性化なんて数年前は全く興味がありませんでした。ただ、こういうふうな形で関わらせていただくことで、今は商店街が大好きな場所になって、行けば、知ってる人にたくさん会えて、今は自分の居場所にもなっています。

いちごは様々な活動を通じ、地域の点と点を線でつなげ、その線を輪にしていく役割を担っているんじゃないかなと勝手に思っています。「人をつなげる、地域をつなげる、未

来につなげる」を理念に地域のかけ橋になれるような団体に成長していきたいと思っています。

今日は要望を言ってもいいようなお話をいただいている、何を言おうって、その瞬間からずっと緊張しちゃってるんですけども、昨年度、「おひさまのへや」で清水町福祉センターを使わせていただいたんですけども、もともとは私自身も高齢者の方が使う施設だと思っていたんですけども、昨年度1年間利用させていただいて、親子が遊びに来るような施設だったんじゃないかなんて思ってまして、自分の子供たちが育っていく清水町が、いろんな人たちに守られながら子育てをしていけたらいいなというふうに思っていて、私は、これほんとに妄想なんですけれども、清水町の福祉センターの公共の施設で、行政と民間で運営する、駄菓子屋のようなものができたら、駄菓子って10円で売ってるんですよ。その10円の入口ってすごく大きいんじゃないかなんて思ってまして。その10円を入口に放課後の支援の場所になったりとか、貧困の家庭の支援になったりとか、あとは高齢者の居場所にもきつとなるんじゃないかなとか。あとは高齢者と子育て世代をつなぐ場所にもなるんじゃないかなんていうふうに思っているの、それを民間につけてやる、行政だけでやるのではなくて、もしコーディネーター役として入らせていただければ、そういう形で公共の施設である駄菓子屋っていうのができてきたら、町が少し変わっていくんじゃないかなんていう妄想を話させていただきました。

ありがとうございます。

【川勝知事】 清水町から発言者1さんと発言者2さんにお話いただきまして、発言者1さんのチャッティーですね、ちょっと見せていただいてよろしいでしょうか。後ろの人見にくかったと思うんですよ。

このチャッティーを、こういうふうにペットボトルに入れるんですね。そうすると、しっかり閉まりまして、そして上はこの蓋で閉められると。そうするとですね、このペットボトルが何度も使えるという。

そういうことで今、海洋プラスチックの問題が世界的な問題になってますけれども、このプラスチックも、特にこの茶こし器だと、ペットボトルでも使えると、95%のペットボトルは日本で売られてる、これは全部合うということであるようでございます。

この発明家の発言者1さんのヒットということと同時に、この間の東日本大震災でも、これが重宝されたということですね。ぜひ皆さん方に知ってもらいたいということで。私

も今日、初めて知った次第でございます。

それから先ほどの塩ですね。南アルプスの水が作っているのが川根本町のこの山のお茶でございますけれども、その山のお茶を練り潰したペーストのお茶の栄養分とお塩が、一緒に入っていると。だから沖縄の塩よりもこちらの方がいいという、そういうことですね。

それからお茶絡みですね、お茶って言えば一期一会ということで、発言者2さんの「いちご」は食べる赤い「いちご」だと思ったら、一期一会の「いちご」だというのが、これはやっぱり発言者2さんの思いが、なんていいますか、名前にですね込められていると思います。

出会いを大切にすることですね、産後のうつになられたっていうその苦しみを乗り越えるのにこういうものがあつたらいいなというものを手作りになって10年を迎えられたのは2017年と言われましたが、それで10年ということで御褒美が来ると。

沼津でパンまるしえですか。それが10大イベントの中に入ったっていうわけですね。ですから、清水町中心主義じゃないっていうのがよく分かりますね。

昨日、パルながいずみに行ったんですけども、たまたま玄関先でお話しした方が、続けて、「実は三島からなんです。」なんて恥ずかしそうに言っておられましたけれども、三島の人、沼津の人、来られてまして、そういう方達に対して、差別どころか誰でも来れるようになってるんですね、素晴らしいですよ。3分の1ぐらいが見知らぬ人ということですから、いろんな違う地域の情報も手に入る。

「おひさまのへや」が自分の居場所になるとか、あるいは「ぬまづパンまるしえ」も、今、自分の居場所になったとおっしゃってるわけですね。沼津や三島や近隣、裾野からも確か来ておられるということで、この東部全体のネットワークの広がりを担ってらっしゃるということで、その方から、今、10円の駄菓子屋をどうかと言われて、なかなか面白いなと思って。10円なんて100円ショップでも安いって言ってるじゃないですか。その十分の1で、駄菓子10円で何かできないかと。ですから福祉会館のようなところで、しかも困ってる子についていうお話がありました。今、貧困の子どももいます。実は日本の食材はかなり捨てられていますね。売れなければ、それをそのまま捨てるってことが、食べてもいないのに捨てられる。賞味期限があるならば、フードバンクとして、それぞれ必要な方に差し上げるといふふうにしよということ、それを確か福祉会館などですね、社協の御協力を得ながら今広げていっておりますので、そういうところと合わせてやると、できるかもしれない。ただ、即、じゃあ10円駄菓子屋をですね、市またはボランティア組織、そ

れから県もですね、組み合っやれるかどうかというのは即答はできませんが、ともあれ御趣旨は明快でありますので、県民、市民、この町民の人たちが一緒になってやっていくようなアイデアを形にしていくと。そんなこと初めからできないっていうのは、これは昔の役所のやり方ですね。そうじゃなくてどうしたらできるかっていう方法、一緒に考えていくという、今、宿題をいただきましたので、この辺一緒に考えていくっていうことだけです。差し当たってはお約束させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

【発言者3】 皆様はじめまして。私は裾野でいちご農家をやっております。いちごの里BerryGood!の発言者3と申します。よろしくお願いたします。

私は実はもう一つ肩書きを持ってまして、この後にお話をさせていただき発言者4さんと一緒に一般社団法人南富士山シティという団体でも活動しています。その中で私が主に携わらせていただいている分野が農業分野になります。

私自身は、今から3年前に静岡県のがんばる新農業人支援事業というものを使わせていただいて、全くのサラリーマンから新規就農いたしました。もう3年経過するんですけども、その中で、つくづく農業に対して感じる問題点というのが、農業が非常に衰退しているなということだと思っています。

特に裾野市というのは、昔は、芝ですとかいろいろ有力な農業の作物があったんですけども、なかなか今思うようにいってなくて、さらに、高齢化して、次に繋がる人材が不足していて、結果として耕作放棄地が増えて、今ある農地についても、収益を生み出すような農地ではなくて、管理をするためにマイナスの労力ばかり取られてしまうという、農地の不良債権化なんて僕は思っているんですけども、そういう問題が山積しているなと考えています。その原因は何だろうなとずっと考えていたんですけども、その原因は、やっぱり農業がそもそもビジネスとして成り立たないというところに、一番の問題点があるのかなと考えています。

私がそもそも農業、いちご作りをやると思ったのは、静岡県の農業の支援プログラムの中で、いちごというビジネスがちゃんと成り立つんだというのがはっきりしたからこそ、あえてチャレンジしてみた次第なので、ビジネスとして成り立つか成り立たないかというのは非常に大事ななことだと思っています。今抱えている農業の衰退の問題、原因がビジネスとして成り立たないんですから、解決策としては、儲かる農業ビジネスというのをどう

やって構築していくかを考えるべきだと思っています。その儲かるというビジネスを私自身作り上げて皆さんに見せていくことができれば、次にやろうとチャレンジする人が増えてくるのかなあとと思っています。

僕自身ずっとサラリーマンをやってきて3年間農業の世界に入ってみて感じるのが、作るということにはすごい頑張っているんですけども、じゃあその作ったものをどうやって売っていかうかというところにあまり議論がなされていないような気がしています。なので、私としては、もちろん作ることも大事なんですけれども、そのあとの販売方法、流通方法というところに着目をしています。

裾野市の強みというのが、私は、都市へのアクセスのよさ、大体東京まで1時間半ぐらいで行くことができるというのは、実は強みだと思っていまして、そんな中で着目しているのが、今から2年ぐらい前なんですけれども、貨客混載の解禁がなされまして、裾野市から新宿まで高速の路線バスが、毎日何便も運行されています。高速路線バスのトランクルームを使って、私の作ったいちごを東京に運ぶことができないかなと考えています。

そう考えていた時に、裾野市さんや南富士山シティ、あと、いろいろ相談に乗っていただいているブレインチャイルドの社長などと相談して、本当にタイミングがいいんですけども、明日7月13日に新宿駅で開催されるバスタMARKETに裾野市さんに乗っかっていただいて、参加をさせていただきます。もし良かったら後でネットで検索していただければと思います。毎月このマーケットに参加させていただくことで、東京の都心との販路を構築できないかなあと考えています。今、手元に多分資料があると思うんですけど、私が今やっているカフェがありまして、そこで「いちごおり」というものを、今、夏のメニューとして販売しています。これを明日、新宿駅で販売をして、裾野市の特産物であるいちご、あと裾野のそば、モロヘイヤ、お菓子屋さんとコラボしたいちごのどら焼などを販売してこようと思っています。こちらでの明日の目標は、新宿の商店街の店舗で私のいちごおりを取り扱っていただいて、コンスタントないちごの需要を作ってこようかなあと考えています。

この貨客混載というのがうまくいけば、裾野市の産物なり、長泉や清水町の農産物を、新鮮な状態で毎日東京都内に送ることができるようになるんですけども、ここで一つ問題点があって、これを知事に御協力願えればなと思っています。もし農産物を運ぶことが可能になり、受け手がたくさん仕入れたということになった時に、バスに乗せて下ろした後、受け皿としての倉庫機能がまだ確保されていませので、新宿から平河町まで

どうやって運ぼうかという考え方はあるんですけども、県の東京事務所を一時的にですけど、物流拠点として使うことができないかなと考えています。それとあともう一つの問題点として、バス会社さんの協力が得られるかというのはあるんですけども、これは毎月、開催に参加することによって、バス会社の協力もいずれは得ていこうと思っています。

こうやって農業が儲かるビジネスだということを実践することで、裾野の農家の皆さんとか、長泉とか清水町とか御殿場の特に農家の長男ですね、今農家の長男は、大体市役所職員とか、サラリーマンになってらっしゃる方が多くて、そういう農家の長男の人が、じゃあサラリーマンを辞めて儲かるんだったら農業にチャレンジしたいなという気運を醸成できるようになればいいなと思って活動しています。

以上です。

【発言者4】 はい、皆さんこんにちは。裾野市から来ました発言者4と申します。

ジャケットを着てきたんですけど、緊張のあまり控え室に置いてきてしまいまして、結果的にTシャツ1枚で登壇してしまって大変恐縮なんですけど、緊張してますので御容赦いただければと思います。

肩書きはですね、株式会社フジライト代表取締役と一般社団法人南富士山シティの代表理事ということで記載させていただいておりますが、本業のフジライトというのは家業でして、先代から家具の製造工場を継いで、そこの一応社長として、普段仕事をさせていただいております。本業の方は、6年前に、自社ブランド、ものづくりを通じて地域を発信するブランドとして自社ブランドを立ち上げまして、工場の一 corner をショップにして、作ったものを直販して、いいものを安くお客様にお届けするというのをモットーに立ち上げたブランドを運営しております。細々とやってきたんですけど、実はこの秋に、この地域にできる大きなショッピングモールの中に地元を代表して出店することになりましたので、消費税が上がった直後ですけども、皆さんの家具の御利用があれば、ぜひ我が社の新しい店舗にお越しいただければと思います。

それが本業ではあるんですけど、本業の傍ら、こちらはボランティアではあるんですけど、一般社団法人、まちづくり団体ですね、南富士山シティを、裾野市さんからきっかけをいただいて、去年立ち上げさせていただきました。南富士山シティというのは、実は、妄想わくわくバーチャル都市でして、富士山の南側一帯を一つのシティとしてとらえると、特

に境界はないんですが、人口が約100万人ぐらいになりまして、静岡県で一番大きな都市になるという町を勝手に作り上げてまして、この南富士山市民にはですね、市民税223円お支払いいただけると、2（ふ）2（じ）3（さん）なんですが、誰でも市民になりますので、といっても今まだ大した市民サービスができてないんですけど。みんなで一緒に作り上げる町という意味で、御興味ある方は、ぜひ223円を支払っていただけて市民になっていただければと思うんですが。

具体的な活動は、お手元に資料を配らしていただいております、裾野市さんと一緒に地域の産業連携の仕組みを構築するという意味で、いわなみキッチンというプラットフォームを運営しながら、日々そちらで中小企業相談ですとか、企業支援等々を行っております。もう一つは自主事業としてですね、アウトドア事業というものを行っております、これは裾野市の産業を活性化する中でも、やっぱり観光というものを今後力を入れていくべきではないかと思っております。その一つのコンテンツとして、やはりこの地域の豊かな自然であったり、先ほど発言者3さんがおっしゃられた都心からの距離であったりとかを活かすには、アウトドアを中心にですね、それに付随したスポーツや、自転車ロードレース等といった、自然を活用としたコンテンツを前面に打ち出して、もっと観光に活かしていけないかという取り組みの中で、アウトドア事業というものを行っております。

具体的には、大手アウトドアメーカーと提携をしまして、この地域に手ぶらで来てキャンプを楽しんでいただくというサービスを提供させていただいております、これは地元のキャンプ場さんと連携をして、この手ぶらキャンプサービスを提供させていただいております。また、裾野市には十里木キャンプ場という市営のキャンプ場があったんですが、これは残念ながら昨年閉鎖になってしましまして、これの再開を何とかできないかということで、その再開に向けた活動なんかも行っております。

裾野市の観光面においては、サファリパークですとかぐりんばさんですとか、大体年間200万人ぐらい、裾野市全体の観光交流客数の半分以上がこの二つの施設に来ておるんですけども、一方、課題としましては、市内には宿泊施設が非常に少なく、当社調査によると、約600室ぐらいで、観光交流客数に対して非常に少ないという中で、せっかく多くの方が訪れてきても、地域にお金を落とす場所がないというのが観光面では課題かなというところです。今、ホテルがないのでテントを立ててるような状況でありますけれども、今後、観光をさらに活性化していく中で、課題としては、都市計画法上の規制が立ちほだかりまして、裾野近隣には、今、たくさんのホテルや宿泊施設ができてきているんですけれ

ども、裾野市内は、どうしても市街化調整区域や農地があつて、なかなかホテルが建てられない。私も本業は家具屋でして、家具を最大限に体験できるのはやっぱりホテルなんです。ね。

なので、本当はものづくりを通じて地域を発信するブランドとしては、自社のブランドが運営するホテルを建てるのが夢ではあるんですけども、都市計画法上なかなか実現が難しいという課題がありまして、今日は県や行政に提言というか、希望という部分です。ね、今後オリンピックも控える中で、オリンピックには間に合わないと思うんですが、裾野市、また、その周辺の観光を盛り上げていくためには、やっぱり都市計画法の中で、規制の緩和ですとか、きちんと景観条例を定めた中で、有意義な開発ができるような施策というものを地域として、今、希望していて、そんな中で様々な活動を行っております。

以上です。ありがとうございました。

【川勝知事】 裾野という所の土地柄を反映し、イノベティブといますか、なかなかの御提言をいただいて、これは挑戦に値するなんていうのが、お二人のお話を聞いた感想であります。

発言者3さんは3年前にサラリーマンを辞めてこっちに帰ってこられたと。ですからサラリーマンで培われたご経験、ビジネスの感覚ですね、これが基本にあつて、お父さんの仕事だから作ってるんじゃないんですね、いちごはビジネスになるということで、これを始められたということですよ。そしてそれは非常にベリーグッドだと。BerryGoodは、いちごのこと英語でストロベリーじゃないですか。そのストロベリーの後半のベリーを取って、BerryGoodなんですね。この辺がもうユーモアといますか、茶目っ気があつて、あるいは余裕があつて、いいですよ。それでこのB、E、R、R、Y、普通、とてもいいという「ベリー」はVでしょ。V、E、R、Yですけど、B、E、R、R、Y、GOODで、いちごはおいしいよと言ったわけで、このいちごを言ってる。

これが明日売れるかもしれないなんていうのですね。それで、何としても成功させてもらわなければ。貨客混載って初めて聞いて、何のことかなと思ったら、よく聞いていると、貨物とお客様を一緒に運ぶという、そういう意味ですね。大きなバスに人々が乗られると、この中にトランクなんかを入れる所がありますが、そういう所にいちごを積んで、新宿に持って行ってですね、そこでバスタMARKETですか、これでやってみようというわけで。まずは、ぜひ成功してもらいたいですね。

東京事務所というのは、平河町といいますか、要するに国会議事堂霞ヶ関のすぐそばに都道府県会館というのがあるんですよ。これはとても大きい。私どもは13階に入ってます。隣は山梨県とかがありまして、それから富山県も入ってます。そこでガラスの所にそれぞれの商品を宣伝して出してるわけですね。そもそもこの建物は総務省が作ったんですよ。そして、すぐそばに霞ヶ関や国会議事堂や、あるいは自民党の本部があるのはどうしてかっていうと、陳情に行くためです。昔は、国からお仕事、御方針が定められる。で、都道府県がその方針に基づいて県の計画を決めると。県の計画は国の計画と連動してますから、国の計画で県になるべくお金が入るようになっていうことで、陳情に行くための拠点が都道府県会館なんですよ。それで私はそれを逆手にとりまして、われわれはふじのくに大使館と呼んでいるんですよ。やっていることは変わりません。陳情なんですけれど。

さて、そこを、このいちごに使えないかどうかと。県の東京事務所は事務所なんです。そして13階だけです。下の方は全部、総務省の方たちが出て、全国知事会も開けるようなそういう会議室があったりして、物を置けるようにはなってないんですね。そもそも、そういう建物として作られているということがありますので、他の46都道府県と、いろいろと相談しないと、この建物の使い方は勝手にはさせてもらえないと。

エレベーターで、いちごをざっと運んでいって、うちのふじのくに大使館で、BerryGood！のいちごおりを食べていただくとみんなお客様が喜ぶと思うんですけども、大体、うちは食いしん坊ですから、うちの職員が全部食べてしまうんじゃないかと思いますが、それはともかくとして、アイデアとしては面白いですね、県がそういう東京の拠点と協働すると。これは各県が、東京にいろいろと、物を売るための場所を作ってますからね。うちはこれまでもなかなかうまくいかなくてですね、今度、新しく開くときに、そういうところは協力できると思いますが、今の都道府県会館それ自体は、残念ながらそういうことが許されるような規則になってないんじゃないかという気がいたしました。

ともあれ、ここは地の利が良いと言われたのは、発言者4さんの話にも関わります。発言者4さんも、もともと家具屋ですか。あなたご自身は東京で何をされていたんですか。

（【発言者4】働いてました。サラリーマンをしてました。）だからですね。出戻り組なんですよ。幾つのときに戻ってきたんですか。（【発言者4】34です。）

だから、「30歳になったら静岡県」ってあるでしょう。聞いたことないですか。20歳前後で東京に出ますよね。1回親元から出て世界を見てみたいという気持ちがあるでしょう。ところが、しばらくすると、30歳近くなって、パートナーが見つかったと、結婚したいと。

そうするとその方を、御両親に紹介しなきゃいけない。こちらもまた向こうの御両親に御挨拶に行かないといかんというときに、どうしても両親のことを考えます。それから、自分の身を固めるとなると、2人でどこに住むかってことも考えると、そうすると、マンションを借りるとか、あるいはローンで買うとか、大きなお金が動きます。だから、人生の転機が大体30歳前後で訪れると。その時に静岡県で働けるような色々な情報を提供しています。

今、高校の卒業生にカードを渡しまして、そこにQRコードが入っております、今、静岡県でどういうことが行われているか、どういう産業があるか、しょっちゅう更新しています。就職の時期になると、そういうものをバンバン流す。協定を結んだ大学にもそれをやって、30歳になったら静岡県にいつでも戻ってこれますよとなっている。その典型が発言者4さんです。そして、ちょっと遅れましたけども、発言者3さんも戻ってきたいと。それがたまたま静岡県ではいちごでできるということに戻ってくる。もう少し早く分かってたなら、同じような時に戻って来られたんじゃないかと思いますね。

こういう方たちの新しい試み、それぞれ家具、あるいはいちご、これを励ましていかなくちゃいけないと、これは成功事例にしなくちゃいけないと。

それからもっとすごいのが、この南富士山シティという考え方ですね。しかも、富士山に引っかけて223円と。223は、これは高貴な方のお誕生日であります。富士山の日でもあります。天皇陛下の誕生日ということになりまして、その223円を納めれば、南富士山シティの市民シップが得られる、良い考えですよ。

こういうのはやっぱり、外に出ているんな刺激を受けて、視野が広がっているから。いわゆる裾野中心主義じゃないんですね。でっかく構えているという、そういう感じがします。ですから、こういうのは、私はもう本当に面白いと思います。

それから、宿泊施設がないと発言者4さんがおっしゃった。これはものすごく重要なことで、今日、水ヶ塚に行きましたら、どんどん合宿をやりたいという話が引きもきらないと。ところが断ってるんですよ。泊める所がないからって。だから、何人に絞ってくれという。それはちょっと残念でしょう。ここを準高地トレーニングの場所として良いと誰もが思う。パッと見たら富士山ですから、その麓でトレーニングするんですから最高ですよ。しかも東京から近い、アクセスが良いと。ところが泊まる場所がない。合宿に来て泊まる場所がなかったら、これは合宿になりません。日帰りになりますからね。だからどうしたらいいかと。地産地消がいいと思うんですよ。この建物などはもともと高校ですから、あ

まり県産材を使ってないのは残念ですけど、今ですね、例えば草薙の体育館、あるいはその沼津のプラサヴェルデ、あるいは空港を建て増した時、全部県産材を使っています。県庁の本館は、腰板にもほとんど全部、富士産檜と書いて、使っているんですよ。森を動かしたいと思っているわけです。その木を切って、そしてそれを家具にすると。その家具を使うことが大事で、だから、地産地消でやるのがいいと。これは裾野にある建物だから裾野の家具屋さんの名品がここにあるから、この木は生きてますよと、ここで生まれた木で名人が作った匠の技ですというのはすごくいいと思います。

広い意味での地産地消だから、まずは、ホテルをどういう所に、どういう目的で、誰を相手に作るかということ、やっぱりもう1回考え直す必要があるんじゃないでしょうか。それも、南富士山シティっていう全体ですね。取り合いにしないで、囲む形でですね。この地域が外国人、あるいは若い青年たち、いろんな形でのTPOに応じた宿泊施設があるようにしなくちゃいけないと。宿泊施設が少ないっていうのは、これは重要な我々に対する政策的な提言であるというふうにとめた次第であります。

それはともかく、夢のある話を聞きました。いちごおりですね、これから季節だから、明日成功していただいて、そしてバス会社とも話をしていただいて。静岡県は、こういうことに対して飛行機でやっているわけです。お客様とベリー部分、これは荷物も入れますけど、国内ですと、たくさん大きなボストンバッグなんか持って行きませんから、その所にですね、いちごであるとかトマトであるとかを積んで沖縄に持って行ってのわけです。全日空が沖縄にもものすごい大きな日本全体の貨物ターミナルを持っているんですよ。そこから東アジアの国々にバーッと飛んでいるんです。沖縄に皆さん行かれるときに、荷物なんて大したことはありません。しかし、そのベリー部分といいますかお腹の所には、そういう貨物が積まれているわけですね。先ほどおっしゃった貨客混載ですね。飛行機でできるんだらうから、バスならもっと簡単ですよ。どういうふうな仕組みにしたらいいのか、この辺のところはバス会社にでも言ってみればいいと思います。儲かる話なので。

こういう2人の裾野から出た話はですね、何か活かしたいなあ。すぐ、はいこれやりましょうと言えないのがちょっと残念な歯がゆい思いがしますけれども、お聞きしまして大変癒されたような感じになりました。

ありがとうございました。

【発言者5】 長泉の発言者5です。よろしく願いいたします。

現在、私は長泉で味噌加工グループのリーダーを行っています。

私たちのグループは味噌を作って販売するのではなくて、加工場に自分の味噌作りに来て、作って帰る人たちの指導とお手伝いをしているグループなんです。

指導者として大事なことは大変に大きな機械を使うので、指導者同士が声掛けをして事故がないように、そして、味噌を作りに来た人がけがなく事故なく喜んで味噌を作ってくれてくれることです。

味噌は麴から手作りで作りますと、4日間かかります。でも私たちの味噌は1日で作って帰ることができるのです。それは指導者が2人と作る人が4人で、自分たちの味噌を作りながら、次の日の人の味噌の準備をします。大豆を洗ったりお米を洗ったり麴を蒸かしたりと、いろいろな仕事をするわけで、朝の9時から2時まで一生懸命働きます。1日で1年分の食べる味噌を作って帰ることができるのです。

しかも、国産の大豆と地場産の米にこだわって、また添加物のない安心安全な味噌は、たちまち大勢の方に広まりました。作った人たちは口々においしいと言ってリピーターになってくれました。多いときには、12月から3月までのワンシーズンですが、250人ぐらいの女性部の人たちがお味噌作りに来てくれました。

最初は指導者はほとんどボランティアで指導していたのですが、大変な作業だったので、時給制を取り入れて無理のない活動ができるようにしました。

また、平成23年には、農協で、若い女性の方に食と農にもっと関心を持ってもらおうということで、女子大学ができました。2年間のカリキュラムの中の一つとして味噌作りの体験をしてもらっています。女子大の生徒たちは初めての体験に麴の香りがすごくいいとか、大豆がすごくおいしいと言って喜んでくれています。「でも、この味噌は作ったらすぐ食べられるんじゃないよ。半年以上たたないと熟成しないんだよ。」というふうに教えてあげると、食べるのが待ち遠しいと言って、帰って行ってくれました。

その中で、味噌を作ってくださった方が、今までお味噌汁を飲まなかった旦那様が、この味噌でお味噌汁を飲んだらとっても美味しかったと言って、その女子大の方が今度女性部に入ってくれて、お味噌作りを続けたいと言ってくれました。その方が、いずれ、味噌の指導員になってくれたらいいなと私たちは応援しているところです。

80歳を迎えたベテランの指導者が体力の限界だということで、1年前に引退されました。その方は、私が味噌を作り始めた時からの大先輩で、とてもお世話になりました。感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。私が80歳まで味噌を作れるかなあと思ったら、本当に自信

はありません。でも、若い人たちのためにもできるだけ続けたいと思っています。

今は主人と2人で長泉の特産であります白ネギを作っています。定番の露地野菜や5年前から西洋野菜にもチャレンジし、地産地消の産直に出荷し、喜んでもらっています。

味噌作りや農業には定年がありません。健康に注意して、ずっと続けたいと思います。
ありがとうございました。

【発言者6】 お願いいたします。

聞いていて本当にいろんな方がこの身近な所にいらっしゃるんだということにすごく感銘を受けておまして、私の方は長泉代表みたいな形で前では座らせていただいているんですけども、もともと私は、沼津に生まれ沼津市役所で4年間過ごした後、そこをドロップアウトしまして、富士などで経験を積みつつ、今は長泉町に住んでいます。

三島に拠点を持って、東部圏内のエリアを、いろいろ行き来させていただきながら、今、起業して法人化して4年目という形になっています。

長泉町は、自分が妊娠した時に、親から子育てするなら長泉なんじゃないかっていうような声も受けて、その土地に住むということになったんですけども、住んでみたら、期待感が高かったせいか、何か子育てママが知りたい情報とかが、全然検索しても出て来なくなっていうような事を感じまして、でも、不満を言ってもしょうがないので、その時の町の産業関係の担当さんや商工会さんと一緒になって、困りごとを持っていたり、居場所がなかったり、そういう方々を逆に活用して情報発信のなり手になっていただいたらいいんじゃないかということで、今年も、5期目を輩出しました、ママラッチという仕組みと一緒に作らせていただきました。ママラッチ、パパラッチはパパですけどね、ママが発信する長泉町の情報ということで、ママラッチ。これはその当時の担当の人の親父ギャグだったかなと思うんですけど、ネーミングとかデザインってすごく大事で、結局それがワールドビジネスサテライトか、何か海外のニュースでも配信されるぐらい、いろんな情報を配信されて、いろんな視察が来たりですとか、富士宮市がハハラッチっていうのをやられたり、浜松でもいろいろやられたり、富士の方でも同じようなものが現れたりしています。お母さんたちが、その時に困ったことを誰かに伝えたいっていう思いがすごく高まる時期でもあるので、情報発信者として活用していきましょうという取組をさせていただきました。

お母さんたちは守るべき存在であるんですけども、いちごさんがそうであるように、一

歩一歩力をつけていらっしゃる。法人化されたり、この地域でも、いろいろな団体さんがすごく力を蓄えてきていらっしゃる。行政の仕事を受託されているような団体さんも増えて参りましたので、そういう力をどんどん活用していただけると良いのかなと思います。

弊社は、私が妊娠中に立ち上げた会社ということもありまして、県内で初めて子連れでも仕事ができるようなオフィスを備えたサポートオフィス「コトリスラボ」というものをやらせていただいています。そこには、今、70名以上の、税理士やパティシエやデザイナーなどがいます。お子さんがいたり、いなかったり、いろいろですけども。そういう方々に属していただいて、地域のですね、老舗の企業さんの「発信力がない」とか、「人手が足りない」、「企画力がない」、なんていう困っていらっしゃるような案件に、女性の目線だったり、新しいお客さんを見つけ出す目線でサポートさせていただいています。

例えば、地域のデザイナーの会社さんがちょっと珍しい干物の鯉のぼりを作ったんですね。その鯉のぼりはすごく面白かったんですけども、それだけだと売り切れないということもあり、ちょうど端午の節句の前でもありましたし、沼津の干物を盛り上げたいという時期でもありました。そういうことで、ネットニュースで配信しつつ、それを作っているお母さんたち、お裁縫が得意なお母さんたちをまとめまして、ミセスミシンというお名前とロゴを作って配信させていただきました。そうしたら、全国からオリジナル鯉のぼりの依頼が殺到しておりまして、山梨の水族館からピラルクーの鯉のぼり1000匹のご依頼が入ったりしました。それも、こちらの言い値でお仕事できました。また、フリーでやっていたらっしゃるパティシエの方、シングルマザーの方だったんですけども、その方がすごく提案力が高かったので、飲食店、居酒屋でスイーツが弱いんだよなという所に提案をしていただくシークレットパティシエというサービスを提供させていただきました。人はシークレットと書かれると、なんだろうって思う心理もありまして、スイーツを提案して本人は作らないんですけども、そういう影のパティシエさんがいるよというような企業向けのサービスを作らせていただきました。そうしたら、飲食店とか、カフェとか、うなぎ屋さんとか、いろんな所です、ごひいきにさせていただいております。その彼女は、今、日本を離れ、短期的ですけど、上海の方で日本スイーツが非常に人気があるので、そちらの立ち上げに、娘さんを連れて、短期で行かれています。そういうことで、お店を持たないパティシエ、たった1人のフリーの女性でも、様々な働き方ができるということと一緒に確かめて参りました。

長泉町さんにも長くごひいきにさせていただきまして、ママラッチの事業もそうなんです

けども、お手元に配らせていただいております、わくキャリというセミナーもあります。女性のいろいろな「好き」をですね、仕事にしていこうというスキームで、今、募集しております、もう半分以上埋まっているんですけども、そういう講座をやらせていただいています。

長泉の一つの特徴かなと思うんですけども、ファルマバレー関係の企業さんとか、お医者様とかがいらしているということもあるのか、そういう方の奥様が移住していらっしゃることも多くありまして、高学歴だったり、お仕事歴がすごく多種多様にわたっていらっしゃいます。普通にこのパルながいずみとかで遊ばせていらっしゃるようなお母さん、お子さん連れのお母さんなんだけども、実は、京大出身なんですとか、大手自動車メーカーに勤めていますとか、そういう物理系の仕事をしてましたというような方がたくさんいらっしゃいます。そういう方々が、同じように大手で勤め続けたいとか、東京に通い続けたいとかということになると、2人目3人目を考えると、遠隔地で仕事をしていくのは難しい部分があります。長泉町において、何か自分がやってきたことを別の形でビジネスにできないかという熱が非常に高まっているなというのを感じます。

そういう、小商いとかスモールビジネスから始まるイノベーションが、これから長泉では非常に期待が持てるんじゃないかなというのを肌身で感じているところでもあります。ご要望というか、そういうことがあったらいいんじゃないかなと思うこととしては、企業誘致も良いかなと思うんですけども、「とがりtable」とかいろんな所で生まれてきている長泉やその周辺の小商い、スモールビジネスのイノベーションができるような拠点ですとか、それを支えていけるような仕組みをお願いしていけると。せっかくいろんな方が長泉に集まって来てくれているんですけど、活躍できる場がなかったり、都内のような活躍の機会や制度が、まだ、できていない。

ゼロイチ期の開拓の場所でもあったりするので、そういう方々が活かされるような場が、ママラッチとかもいいんですけども、それ以上に活かされるような場ができてくると、長泉は、その周辺を巻き込みながら、面白くなってくるんじゃないかなというのをすごく感じています。

私は、県の地域創生起業支援事業の審査員をやらせていただいているんですけども、基本的に東部地域からの申請はすごく少ないんですね、浜松が多かったりして。でもこうやって聞いていると、すごくイノベティブな方々、その種だったり原石がたくさんいらっしゃるの、ぜひ、東部地域からも育ていけるような、そういう拠点があたり仕

組みを作っていけるといいなあと思っております。町長を前にしてではありますが、これからのニュービジネスに対する門戸を広げていただいたり、取組をしていただくと、活躍したくてうずうずしている女性たちや、そういうビジネスのなり手さんが、どんどんこの町に活躍の場を広げていただけるんじゃないかなと思いました。

発言者5さんの味噌もすごく面白いなって思ひまして、そういう脈々と続けていらっしゃる活動が、何かお名前がついたりとか、そういうようなチームになって、いろんな方が知ってくれるようになるのと、またお客さんとか広がりもできるのかなって思ったりしました。何かそういう原石がどんどん育まれるような仕組みを作っていけたらいいし、私もせっかくそういう町に住ませてもらっているんで、そういう取組を推していければなと思っております。

すいません。長くなりましたが、よろしく願いいたします。

【川勝知事】 そうですね。

長泉のお二人の女性の御発言がございましたけども、子育てがしやすいということで、発言者6さんがこちらに移って来られて良かったと思いますね。そういうイメージが静岡県下ではすごく強いんですよ。合計特殊出生率が静岡県トップですからね。間もなく2.0を抜くんじゃないかというふうな期待は、裾野と、長泉が、今、争ってるんですけども。長泉のイメージの方が我々には強いですよ。だけど、やっぱり本当に子育てをしようとする、発言者6さんが気づかれたように、まだまだ不十分だということがあるので、今、さらに磨きがかかっているんじゃないかということで、こちらの地域が子育てしやすい地域であるということ自身は、変わらないんじゃないかというふうに思っております。

まず、発言者5さん、味噌これは日本の基本ですからね。ただ、大豆は私どもおそらく100%近く、アメリカから輸入してると。あるいは南米も含めてですけども。輸入品がこの日本にとってお醤油の原料でもあるし、お味噌汁の原料でもあるし、もちろんお豆腐の原料でもありますから、大豆だけは何とか自給しなくちゃいけないなど。大豆は地元地産ですか。こちら大豆を使ってお味噌作りをされて、そして今や、2代目ですかね、その初代の80歳の方が退かれたと。この話もなかなかいいですよ。つまり、味噌作りには定年がないということです。80歳になって、初代の方がそろそろ体力に限界がきたから、自分はおそらく余力をもって、余生をゆっくり過ごしたいということだったんじゃないかと思うんですよ。同時に、折に触れて発言者5さんほか仲間たちを励ます存在、又は励まされ

る存在、そういう存在じゃないかと。

ちなみに、上皇陛下は4月30日をもって譲位されました。昭和8年生まれですから、1933年12月23日生まれだから、去年の12月23日で、85歳だったわけですね。そして、この4月、プラス4ヶ月プラス1週間でお辞めになったわけですから、85歳と4ヶ月プラス1週間現役だったということです。しかも余力を持って、御退位されたというわけでしょう。ですから、御自身の体力に照らして、これ以上全力投球できないとおっしゃったわけですね。だから、自分でお決めになってるわけです。

これが日本国民統合の象徴の立ち振る舞いの一つです。今度、天皇陛下になられた方は1960年、昭和35年生まれですから。だから、来年は2020年、60歳になるわけです。60歳から本格的なお仕事が始まるということですね。

だから、私は、今、お話を聞いていて、味噌作りにですね、何に戻れば、一番自分にとって一生きっちり取り入れられるかというヒントをおっしゃっているのじゃないかというふうに思いますね。

ちなみに、醤油が発明されたのは今から四、五百年前です。ちょうど、わさびができる、わさびが発見されたのは家康さんの頃ですけど、その直前ぐらいですよ。味つけに、フランス料理にしても、中国料理しても、みな香辛料を入れるでしょう。あれないと、そもそも食文化が成り立たないので、だから貿易しなくちゃいけなかったんですけど、日本は醤油を発明したので鎖国ができたんだと、だから鎖国は醤油の発明の結果だと言ってる人がいます。素晴らしい意見だと思うんですよ。私ですけども、それぐらいですね。

大豆というのは、日本の食生活を支えています。だって、煮物とか焼き物は全部醤油じゃないですか。味噌汁もこれ1本で全部できるんですよ。お醤油になる前が味噌ですから、味噌の上澄みを上手に取ったのがいわゆる、金山寺味噌ですか。そこから始まったわけですよ。ですから、今、これが引き継がれているっていうのは素晴らしいと。女子大生がですね、私も継ぎたいとおっしゃっているのも、すばらしいと。こういう形でですね、この輪が本当に広がって欲しいなど。

じゃあ、どう広げていったらいいか。その時に登場するのがこの発言者6さんですよ。この方、鯉のぼりだけじゃ駄目よ、というわけですね。非常にイノベティブっていうか、革新的な新しい考えを持ち込むのに長けた才能をもっていらっやって、だから沼津市役所に収まらなかったんですね。だから、市役所をぱっとやめてですね。それと、もちろんお子様ができたと。

これほど大事な仕事はありません。子育てほど大事な仕事はないと思います。その時に、一番子育てしやすい所はどこかって時にですね、誰ともなく、おそらく御主人のお母さんからですね、子育てするなら長泉と。これはもう合言葉ですから。これから子育てするなら、南富士山シティという、富士山の麓でと。太陽はサーっと上がってきて雪も降らないし、明るくって、富士山の麓の水、綺麗な水っていうことじゃ、命の源泉ですから、それが美しいということですか。いいに決まってるんです。

誰か深良って言いましたっけ。発言者3さん深良でしたっけ。深良用水ですから、世界のかんがい施設遺産じゃないですか。おめでとうございます。世界のかんがい施設遺産ですよ。すごいことですね。ああいうことをする技術があると。

あちらは箱根の水ですけども、こちらは富士山の湧水ですね、子育てに最高。

で、それを誰が今まで担ってきたかっていうと、男衆だったと。これを、今、女性のパワーが、が一っと出て来てですね。「木花咲耶姫」、あるいは、今は「かぐや姫」ですか。富士山の守り神は、我々は「木花咲耶姫」だと思ったら、違うんだと。かぐや姫だと。かぐや姫が、実は、月に帰ったんじゃないくて、富士山の頂上にお帰りになられたんだということで、富士市ですか、かぐや姫ミュージアムっていうふうに名前を変えてですね、その名前を変えたすぐ直後に秋篠宮御夫妻が来られて、堂々とそれを言ってるんです。

だけど、両方とも女性ですから、ここは、女性的価値っていうものを発揮しやすい場所であるということが、子育てをしやすい町という、これは数字に裏付けられてますけれども、そういうイメージと連なって、こういう方が入って来てですね、ママラッチ、そのまま真似してハハラッチ、そのうちパパラッチとかですね。

いろんな人が腹藏なくいろんなことを言ってですね、そしてやってみましょうよということになって、駄目だったら駄目で、また、考え直しましょうということ、それぞれが励まし合うという感ができている。

ですから、この2人がコラボすると何ができるかというのは楽しみですね。ですから、味噌作りにブランド名とおっしゃったでしょう。ブランド名はありますか。発言者5さんそうなんです。使ってください。「いずみの郷」って。

【発言者5】 「いずみの郷」という、先ほどお昼のときに、お弁当をいただきましたでしょう。その方たちが、最初に、味噌作りをしてたんですよ。自分たちだけで多分。私はそのあとから入ったので、一応指導者という形で、他の方にも勧めたいということで、

私たちは、その「いずみの郷」で作ったお味噌を売るんじゃなくて、同じようお味噌なんですけれども、作りに来た人たちに、自分の手づくり味噌を作って帰っていただくという。そうすると、お味噌作りに来た人が、自分で作った味噌だということで、自分が作った味噌だからおいしいよと言ってお友達にあげたりとか、兄弟にあげたりして、喜ばれてるんですよ、本当に。それが広がって、今みたいな形で、どんどん味噌作りに来てくれるんです。加工場に。それで、私たちは指導員ですので、一応、その方たちから、今は、指導料という形でいただいて、成り立ってるわけです。企業じゃないですけど、やってます。

【川勝知事】 実は、発言者5さん、農山村ときめき女性として、平成20年にですね。だから平成31年で、もう丸11年やっていただいている方で、こういう方なんです。だから、もともと指導者として県が認定している方です。もちろん推薦が上がってきてですよ。

先ほど、発言者3さんがおっしゃってましたけれども、作るということ、これから、販売とか流通とか、そういうところも合わせて考える時が来たとおっしゃってまして、ですから、自分で作ったものを自分で最も安心して美味しくいただくと。旦那様にも、なんて言いますか、安心して、喜んでいただけると。

こういうことを、その喜びを、どういうふうに広げていくかということ、それで、今、発言者6さんが、そういうお店なら、たとえ小さなマーケットでも、例えば、給食で、子供たちに1ヶ月に1回でも、その味噌汁を供給すると。そうすると、やってみたいという人が出てきてですね、やっぱり、この手前味噌を作ってやったらいいと。

発言者6さん何かコメントがあるみたい。

【発言者6】 聞いていて、そういう方が給食に伝道師として来たりした時に、ただ、そういう組合が来ましたよって言うよりは、例えば、ミセスミシンじゃないですけど、「マダム味噌」が来ましたよみたいな感じで、称号をつけると「おおっ」っていう感じがするので。

【川勝知事】 「マダム味噌」です。よろしいかなと。「ときめき味噌」とかね、いろいろできます。皆さんで考えればいいと思うんですけど、そういう言葉を考えながら、わいわいがやがややりながら、ママラッチで揉んでいただいて、そのままママラッチのグループが、皆、それをしかるべきときに学びに来るとかって言うならば、もっとよろしいでし

よう。そういうふうには、良いことは、多くの方に共有していただく、そういう方法もやっぱり一緒に考えていきたいものですね。

ともあれ今日、長泉の起業家精神に溢れたお二人からですね、地域を愛する気持ちが発言者4さんの中に溢れてましたけれども、そういうのがですね、今、長泉で、今度は女性2人が、出してくださって、私もこんなに笑ったことはありません。本当に楽しいお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

【発言者4】 先ほどの延長なんですが、土地利用の緩和の部分っていうのはいかがなんでしょうか。

【川勝知事】 今、裾野市長が権限を持っていらっしゃるんですよ。実は、裾野はですね、土地利用をどうするかっていうのが、この一、二年で、大きく新聞紙上を賑わすと思えますよ。日本を代表する会社が、何とかこういう形で使いたいというふうなことを言われたら、それは、今までの法規制をどういうふうにするかということについて、考え直さなきゃ。ただし、これは市だけではできません。県も入ってやらなくちゃいけないということで、そういう動きが、今、公にできないんですね、まだ。その程度までと。企業関わっているのですよね、それ以上は申し上げることができないんですけども。

土地利用については、いろんなことが言われても、新東名ができました。周りは皆、いわゆる農村ですね。農地です。で、これを物流拠点に変えたり、あるいは市街地に変えるというときには、それなりの手続きがあって、それは、国が、総合特区という形で、人を助けるために拠点になるから必要だということで、七つぐらい認めていただいて、そのあと、もっとやりたいっていう人が、県内の市町にたくさんありましてですね、今、70幾つ推進区域を認めてますけど、そういうことになると、ここは、今、農地だと、農地をどう転用をしたらいいかということが話題になるし、しっかり皆さんと共有された意思ができます。それは可能だということです。

ですから、特に、裾野に関しましては、大きな動きがそう遠くない将来に見えてきますので、動きと一緒に合わせる形で活動されたいと思います。

【発言者4】 はい、ありがとうございます。誰もが知ってる大きな企業が動くときは当然行政も動くんですが、誰も知らない小さな企業にもチャンスをいただけるような施策を

希望しています。

【川勝知事】 それはですね、先ほど発言者6さんの言われたいわゆるスモールビジネスですね。中小企業を振興する条例っていうのは、県全議員一体で決めました。最初やるのは、例えばトヨタさんですら、豊田佐吉さんたった1人の発明でしょう。本田さんもそうですね。ですから、一番最初は本当に小さなスモールビジネスで始まるわけです。これが世界を席卷するほどの大企業になっているわけですから。スモールビジネスから始まる以外、方法がないっていうわけです。

スモールビジネスをやるときに、何が足りないかというと、才能はある、そして、製品もできると決まっている、だけど先立つものがない。今の金融機関は、どちらかというと、お金はだぶついているんですけども、担保がなければ貸してくれません。そこで、官、それから金融機関、それから産業、皆一緒になってですね、この企業面白そうだから励まそうと。みんなですね、この企業は応援すると決めてやっているという、「オープンイノベーション静岡」と言いまして、それをもう4～5年やってますかね。ですから、そこにアプライしていただくんですね、これを応援すると決まれば、いろんなアドバイスや支援をさせていただくことになってまして、スモールビジネスについて、そういう理解を持っていますから、発言者6さんの方でも、何かこういうことを立ち上げたいということであれば、相談していただければ、「オープンイノベーション静岡」という公的ないわば産官学で成り立ってる組織体があって、そこで審議していただいて、応援するということができる仕組みがございます。

【傍聴者1】 清水町から来ました傍聴者1と申します。今日は発言者2の応援で来ました。

一緒に子育てサークルの一社の活動をさせてもらってるんですけど、なかなか資金がなくて。補助金がおりなかったことで、補助金に頼るっていうわけではないんですけど、なかなか運営側の彼女たちは本当にいちごのためにすごく時間を使っているんですけど、なかなかお金を生み出せないっていうのがあります。そこで行政との関わりっていうのがすごく大事になって来ていて、沼津とか三島とか周りの所の方が輝いて見えちゃうんですよ。清水町は、自分も住んでいますけど、まだまだ子育てで頑張りたい。私たちも思う。今までは市に暮らしていて、市長選とかってあんまり身近ではなかったんですけど、清水

町に住み始めてからそういう選挙のこととか、すごい身近に感じて、どの方が町長になるかで私たちの活動もいろいろ変わってくるのか、そんなことまで考えてしまう。

ただの主婦なんですけど、子育て中のもっと若いママたちを応援したいっていう気持ちがあります。なので、今日、発言者2が知事をお願いしたことに対して、新しく町長さんが変わったので、町長さんの話も聞きたいと思って手を上げました。お願いします。

【清水町長】

今日は、発言する機会は本来はないということで来たんですけども、私も昨日まで、町内の5ヶ所で、地区懇談会をやって来まして、いろんな御意見をいただいています。

私の政策の中でも、子育て支援は一つの大きな政策でありますので、皆様方の御意見を伺いながら、しっかりとやっていきたいと思っております。

【傍聴者1】 ありがとうございます。

【傍聴者2】 三島市から来ております有限会社ブレインチャイルドの傍聴者2と申します。

今、裾野市のお二方が関わってるんですけども、いわなみキッチンで、Suso-bizのセンター長を兼ねております。

実は、県の方とも、三島市とも、いろいろ関わってまして、ガーデンシティ三島の構想を仕上げて、四つの戦略とかいうのをまとめて、女性も手軽に持てるようなチラシを作ったりとか、県の事業もいろいろやらせていただいている次第です。

その中で、裾野市さんも中小企業の支援をしていくということが3年前にありまして、そこからずっと、私の方でやらせていただいています。裾野市との関わりは、小さいころに自転車に乗って、プールによく遊びに行っていて、プール病になってしまったっていう記憶があるぐらいなんですけれども、246沿いとそれからJR線沿い、ここは人が住んでますけれども、非常にもったいないのは山の方。私が新聞で知る限りでは、トヨタの工場がなくなっちゃって、そこで新都市構想っていうのができるようなんですね。須山から十里木にかけての所をこれから相当強化したら、面白い町になるんじゃないかなっていうふうに思っています。

発言者4さんも、あの辺をやろうかっていうような話もあるんですけども、岩波から

須山までの新しい交通手段、電車でも、トロッコでも、バスでもいいんですけど、この辺をトヨタがやるよりも早く、動きをつけていく。そうすると、トヨタがやろうとしている新都市の構想がすごく生きてくと思うんですね。

あそこには、十里木の方で、ペンションで相当やめちゃってるところが多いんですね。先ほどの準高地合宿なんかについては、そこを復活させればいいんですよ。今、話しているのは、地域おこし協力隊で首都圏から若い方に来てもらい住んでもらって、直して、できれば3年後までに、そこで独立して、ペンションをやってもらおうとかね。

このようなやり方であれば、ハード面でお金を投下することはないんですね。そして、人口も増えていくというような形での活性化をしていくといいんじゃないのかなって思っています。若者、ばか者が地域を起こすというふうなことがあるので、私も若者じゃないですけど、よそ者としての目利きの的などころでの広い視野で、みんなを指導していきたいなというふうに思っています。

Suso-bizの中で、昨日ちょうど女性の開業、起業した人の集まりのセミナーを開催したんですけども、相談者の7割ぐらいが女性なんですね。この活動支援金が県から3年間、今年度で終わっちゃうんですね。ということは継続性がなくなっちゃうんですね。来年どうするのっていう心配がセンター長としてもありますので、こういう事業はこれからももっともっと継続的に、なおかつ、膨らんで、やっていかなきゃならないものですから、その辺の御支援をお願いしたいのと、須山に行きますと、景観がね、富士山がだんだん見えなくなってきたんです。木が育っちゃう。あの辺を何とかしてもらえれば、もっともっと良い土地なのかなというふうに思います。よろしくお願いします。

【発言者4】 南富士山シティの経済産業大臣、思いは僕と一緒にして、傍聴者2さん。いつも大変お世話になってるんですけど。

須山、十里木は本当に僕ら、すごく可能性を感じていて、まだ、今、運動が始まったばかりですけどね。オリンピックをチャンスとしてとらえて、今、活性化を目指していますので。応援をよろしくお願いします。

【川勝知事】 最後ながら一言御礼を。

まず、フロアの方からですね、傍聴者1さん、また、傍聴者2さん、御発言いただきましてありがとうございます。切実な声だと思います。ですから、自分たちの声が十分に

行政に届いていないというもどかしさみたいなものを感じました。

ですが、また、行政は行政ですね、今、清水町長さんがおっしゃいましたように、子育ても、清水町、長泉、裾野、実は、静岡県下ではトップのことをやっていらっしゃる所なんです。だから、めいっぱいのところがあるのかもしれませんが、まだ、足りないところがあるということで。現場の声に十分に対応してないと。

そうだったら、傍聴者1さん自らが、そういう主張をもっと、町民の方に訴える機会をお持ちになるというふうにすれば、また変わるかもしれませんね。そういうことで、決して諦めないようにしていただきたい。後からどんどんついてくる人たちに、問題が先送りされることだってありますから、それをなるべく早く止める、問題を解決するのは、体力と気力といろんなものがあります。応援してくれる人がいないとできませんのでね。そういうような力を失わないように、今後につなげていただきたいと思います。

傍聴者2さんの御発言は非常に、目に見えるような形で、今、こちらで、発言者4さんの方も、具体的にこれを考えているとおっしゃいましたけれども、確かに十里木の所の活用というのは、別荘地というか、ああいう綺麗な所がありますから、そこが、今、ペンションをやめるところが増えてるということであれば、そこを活用すると。もともといい形の所でしたし、高地でもありますから、じゃあそこを活用するにはアクセスをどうしたらいいかと。今後、いろいろと企業と市また県が一体になるときに、それを先取りする形でやるっていうのは、立派な考えだというふうに思った次第でございます。

今日は、三島から来られて、こういう意見を言われているということで、東部全体がですね、東の風がこうなってますから、追い風として吹いてるっていうのは感じますね。すごく感じます。

こちらは、裾野と長泉を一緒にしろとか、清水と一緒にしろとかそういう話じゃなくて、ネットワークで、そして、三島も入ってやってらっしゃると。そうとなれば、今度は御殿場、小山ともですね、今度のオリパラでかかってきますから、この地域がこのネットワークで一つのまとまりを作っていくんじゃないかと感じましたし、先ほどの南富士山シティですか、そういう名称にもそれを感じました。

それと同時に、子育てといっても、大体30歳前後で、30歳になったら静岡県っていうのは、男の人たちをどちらかいうと意味していたんですよ。女性にとっては、それは結婚すると同じことが、その時に、仕事の関係もやめるかやめないかってことで、当然大きな問題になってきます。どこに住むかっていうのも大きな問題になっております。ですから、

まさに30歳前後ってというのは、人生の、個性は違っても、誰にとっても一つの転機ですよ。

早い人と遅い人がいる、24～25から34～35ぐらいまでにですね、その人たちを励ますというのが本当に必要だと感じました。

そして、女性の子育てについての大きなこの声を、我々が受けとめるべきだというふうに思いまして、それを聞きっ放しにしないようにしたい。

大変、今日は有意義な広聴会になったと思っております。フロアの皆様方、最後までいてくださりましてありがとうございました。皆様、御礼を申し上げます。ありがとうございました。

これをもちまして、知事広聴平太さんと語ろうを終了いたします。

発言者の皆様本当にありがとうございました。